「叫び続ける」

戦争法強行後も広がる抗議

だれの子どももころさせない
だれの子どもも ころさせない

「戦争法は廃止を！」と声を上げる人たち＝19日、那覇市

集会で抗議の声をあげる青年たち＝19日未明、長崎市

学生「僕らは屈しない」

●那覇市

那覇市の県庁前では19日、「SEALDs RYUKYU（シールズ琉球）」が、戦争法の廃止と辺野古新基地建設の中止を求めるアクションを行いました。

軽快な音楽のリズムに合わせ、若者たちが次々と思いを訴えました。関西外国語大学4年の平良美乃さん（22）は「戦争法とか新基地なんて必要ない。『平和のため』というなら軍事費を削って。武力では何も変わらない。私たちの未来は自分たちの手で変えられる」と訴えました。

沖縄国際大学1年の伊佐拓さん（18）は「安倍政権のやり方は民主主義の否定。でも決して僕らは屈しない。僕らは僕らなりのやり方で平和を追求していきたい」と述べました。

琉球大学4年の石橋柚里さん（21）は「自分と意見が違う人がいて当然。でも武力で壁をつくるよりも、人のことを知り、分かり合う努力をしたい。誰も戦場で家族や友人、恋人が亡くなることを望む人はいないと思う」と語りました。

●熊本市

熊本県の「戦争法案反対の運動」に取り組んでいる団体は19日、熊本市で、抗議の共同会見を開きました。法案を憲政史上最悪の違憲立法だとして運動を続けてきた、学者、法曹、若者、宗教者など7団体によるものです。

7団体を代表して、熊本学園大学の坂本正教授（元学長）、宗教者の会の山本隆英住職、WDWの熊本の樹根修吾共同代表、弁護士九条の会の寺内大介弁護士、「女性の会」の平野みどり・元県議（無所属）、「パパ♡ママの会」の森林秀明共同代表、くまもと九条の会の猪飼隆明呼びかけ人代表が発言。

「立憲政治の根を枯らすことに抵抗を」（山本氏）、「希望を捨てずに前を向いて」（森林氏）、「国民の考え行動する力で（戦争法を）覆すことは可能だ」（猪飼氏）などとコメントしました。

●滋賀・長浜市

滋賀県長浜市の長浜憲法共同センター（橋本健代表）は19日、JR長浜駅前で集会を開き、戦争法案の強行採決に抗議しました。約60人が参加し、リレートークでは怒りの声が相次ぎました。

橋本代表は「安倍内閣打倒までともに力を尽くそう」とあいさつ。真宗大谷派住職の野月慈照（たいげつ・じしょう）さん（61）＝長浜市＝は、20日以上国会に足を運び、100人近い自民・公明の国会議員に要請してきたと述べ、法律としてはいったん成立したが、「国民を覚醒させた」と廃止への展望を語りました。日本共産党の浅見信夫市議、社民党の代表が訴えました。

参加者は集会後、市内をデモ行進。観光客や商店主から声援が寄せられました。自治体で働く女性（57）＝東京・調布市＝は「形だけの公聴会で強行採決した。本当に許せない」と語りました。

●名古屋市

「戦車に乗るなら三輪車」「鉄砲持つなら水鉄砲」―。名古屋市北区で19日、ママたちのコールが響きます。3歳の子を持つ畔柳（くろやなぎ）早苗さん（30）が呼びかけた北区ママの会が同日結成され、初めてのパレードに35人が参加。鳴り物や「戦争やめて！」のボードを掲げ、地域住民にアピールしました。

集会で畔柳さんは「たたかいはまだまだ終わらない。戦争法がなくなるまで続ける」と話しました。5歳と1歳の子どもを連れて参加した佐藤詩子さん（38）は「自分の子はもちろん、どの子も傷つけるようなことはさせたくない」。3人の子どもと参加した岩中恵希さん（30）は「国民の声を踏みにじる政府は許せない」と語りました。

日本共産党の、すやま初美参議院選挙区候補があいさつし、戦争法廃止へたたかう決意を述べました。

「賛成議員を落とそう」

●水戸市

戦争法案に反対する茨城県民連絡会は19日、水戸市のJR水戸駅南口で、同法案の強行採決に抗議する宣伝行動を繰り広げました。

同連絡会の田中重博代表（茨城大学名誉教授）が「安保関連法は戦争法そのもの」と指摘。「たたかいはこれから。本日は憲法違反の法案を発動させないたたかい、廃止させるたたかいの出発点。あきらめることなく反対の声を上げ続けましょう」と呼びかけました。

リレートークでは「このままでは日本が戦争することになる。採決を強行した自民、公明の責任は重大。次の選挙で賛成した党の議員を落としましょう」「なんとしても安倍内閣を退陣に追い込みましょう」などの訴えが続きました。

●甲府市

山梨県憲法共同センターは19日昼、戦争法可決をうけ、甲府市のJR甲府駅南口で抗議の宣伝活動を行いました。70人が集まり、リレートークしました。

3歳の子を持つ宮下一恵さん（33）＝安保法案に反対するママの会＠山梨＝は「法案成立が悔しくて朝まで眠れませんでした。会の活動で今まで政治に関心がなかった若いママたちの輪が広がったことに自信を持ち、頑張ります」と話しました。

「普通の主婦です」と切り出した女性（65）＝甲斐市＝は「与党の議員には『自分の頭で考えろ』と言いたい。もっと仲間の輪を大きくして『法律を元に戻せ』と突き付けたい」と話しました。

この他、「選挙の憤りは選挙で返す」「9・18を忘れない」を合言葉に、「憲法を守り抜く活動を広げたい」など、怒りと決意が相次ぎました。

日本共産党の小越智子県議と3人の甲府市議団が参加して決意を語りました。

●秋田市

秋田県では「戦争法案の強行採決を許さない！9・19秋田県民大集会」（主催＝総がかり行動秋田県実行委員会）が19日、秋田市内で開かれ約700人が参加しました。

紺川嘉範代表は「安倍首相は『法案が通れば忘れる』と思っているが、『マスコミを懲らしめる』『法的安定性なんて関係ない』などの暴言、強行採決した国会の惨状と、深夜まで声を上げ続けた多くの人たちの姿を私たちは絶対忘れない。戦争法廃止、民主主義と憲法を取り戻すまで歩き続けよう」と訴えました。集会は、強行採決に抗議する声明を採択し、中心街をデモ行進しました。

孫と一緒に参加した夫婦は「正義と真実は困難に耐え、最後には必ず勝利する」と語り、土崎港被爆市民会議の伊藤紀久夫さんは「政治と戦争は直結している。政治を国民の手に取り戻し、子どもたちの未来を守りたい」と話しました。

「戦争法廃止」を訴える、参加者ら＝19日、秋田市

●札幌市

札幌市の大通公園で19日昼、青年や子連れの母親、労働者ら1000人を超える人たちが集まり、「安倍政権の暴挙は絶対許さない」と抗議の声をあげました。

「戦争させない北海道委員会」が、14日から6日間連続の「戦争させない！北海道総がかり行動」の街頭宣伝・パレード。日を追うたびに参加者が増え、18日夜には大雨のなか、1400人が参加しました。

道労連の黒澤幸一議長、道平和運動フォーラムの藤盛敬弘代表らが「平和を求める流れを大きくして、安倍首相を退陣に追い込もう」と呼びかけました。

中央区の月輪麻美さん（36）は6歳と3歳の子を連れて参加。「国民の反対を無視して強行したのは許せない。時間がたてば忘れると思ったら大間違い。今日の日を忘れずこれからもがんばりたい」と話しました。

「政府は筋通らぬ非道」

●仙台市

仙台市青葉区で18日、「緊急県民集会」（主催＝同実行委員会）が開かれ、約700人が参加しました。

脱原発みやぎ金曜デモの会の西新太郎代表が「原発問題でも安保法案でも、政権は筋が通らない非道をしている。命を守るために生存権を行使しなければなりません」と連帯のあいさつをしました。

元鹿島台町長の鹿野文永さんが「私たちがこれからすべきことは、安倍政権の腐敗を止め、新しい日本をつくることができると信じて頑張ることです」と呼びかけました。

参加者は市内をアピール行進しました。行進に参加した仙台市宮城野区の女性（37）は「いまだに仮設住宅から出られない人が大勢いる被災地を後回しにして、戦争するための道づくりを優先する政府は許されません。主催者は私たち国民です」と話しました。

●群馬・高崎市

群馬県憲法共同センターと「戦争をさせない1000人委員会」などは18日夕、JR高崎駅西口で緊急集会を開き、党派を超えて約250人が参加しました。

呼びかけ人の赤石あゆ子弁護士、PAG（Peace Action from GUNMA）の伊藤達也さん、県知事選をたたかった萩原貞夫さんらが次々とマイクを握り、「数の力で強行しても、憲法違反は変わらない。私たちのたたかいはさらに続く」などと決意を述べました。

日本共産党の伊藤祐司、酒井宏明両県議、各地方議員や民主系の県議らも訴えました。

参加者の怒りのコールに、駅のデッキから声援を送る市民の姿も。

前橋市では同日夕、PAGが集会を開き約180人の参加者らは「賛成議員を落選させよう」などとコールをあげました。

●山形市

山形市の「やめさせよう！安倍内閣 市民の会」は18日夕方、JR山形駅前で自公政権の戦争法案強行採決に対する抗議行動をしました。

「アベ政治を許さない」のプラカードと横断幕を持って戦争法案の強行採決反対を訴えました。

自転車で通りかかった男性は、拳を握りしめ「頑張れ、頑張れ」と声援していきました。

宣伝の様子を見ていた男子高校生の2人連れは、「戦争はよくないと思います。どうして無理やり決めようとしているのでしょうか。もっと時間をかけて話し合ってほしい」。

大学関係者ら76人声明

●岩手

岩手県の大学関係者・研究者・弁護士有志76人（代表＝高橋徹之岩手大学名誉教授）は19日午前、参院での戦争法案の強行採決に抗議する緊急声明を発表しました。

同県では7月、大学関係者・研究者・弁護士の有志368人が、戦争法案の廃案を要求するアピールに賛同を寄せています。

声明では「道理を重んじ、真理と正義を追求する立場」から、暴挙に怒りを込めて抗議すると強調。「国民の良識に依拠して」、今後も戦争法の廃止に向けて運動を進めると決意を表明しています。

岩手県革新懇（加藤昭典世話人代表）も19日、「戦争法の強行成立に断固抗議し、法の執行の中止と廃止を求める」声明を出しました。

意見書反対は公明だけ

●広島・庄原市議会

広島県庄原市議会は18日、参院特別委員会での安全保障関連法案の強行採決に抗議する意見書を賛成17、反対1で可決しました。反対した1人は公明党です。意見書は「安保法案がなぜ今必要なのか、その理由さえ政府から説得力のある答弁はないままである」「日本の政治は立憲主義で成り立っていることを政府自らが否定することは、独裁政治の何物でもない」と批判しています。

●奈良・大和郡山市

奈良県大和郡山市で18日、大和郡山憲法共同センターが呼びかけ「Keep9条 大和郡山アクション」が開催され、70人が参加しました。

年金者組合の藤塚幸弘さんは「今の安倍内閣には黙っていられない」と訴え。日本共産党の、いずみ葉文参院選挙区候補が「平和憲法をしっかり守り、子どもたちに引き継いでいきたい」と連帯のあいさつをしました。

参加者が飛び入りし「平和でなければ障害者は生きていけない」「自衛隊にいる2人の、おいっ子や若者をむざむざ殺させたくない」など発言が相次ぎました。

参加者は「安倍政権の暴走とめよう」「戦争法案絶対反対！」とのぼりやプラカードを手にカホン（箱形の打楽器）のリズムに合わせてコールし、市内をパレードしました。

「国民の胸には憲法が」

●松江市

島根県松江市のJR松江駅前で18日夕、戦争法案の強行採決に抗議する緊急集会が開かれ、参加した400人が「できることはすべてやり、戦争法は実施させない」と誓いあいました。「安保法案の廃案を求める島根大学人の会」など3団体の主催。

国会前の抗議行動に参加してきた島根医大1回生の梶堀了さんは「行動に希望を感じました。だから私は声を上げ続けます」と宣言。「そうだ」の声と拍手に包まれました。

日本共産党の尾村利成県議は、民主党、社民党県議とともに訴え「安倍内閣の退陣を求めて力を合わせよう」と呼びかけました。

駅周辺を「みんなの力で暴走とめよう」とパレード。参加した女子高生3人連れは「憲法9条があり、反対している人が多いのに。民主主義の意味がなくなる」と話しました。

●松山市

松山市で18日夜、戦争法案の廃案を求める集会が開かれ、参加した約400人が「強行採決絶対反対」と唱和しました。「安保法制法案に反対する愛媛の学者・文化人の会」と愛媛9条の会の主催。日本共産党、民主党、社民党などの政党や無党派議員も参加。市民が次々にマイクを握り「あきらめず、戦争法反対の運動を強めよう」と訴えました。

「たたかいは、これからが本番。国会が法案を通したとしても、国民は憲法を胸に刻んでいる」と強調したのは中林麗祐さん（85）。「本当の民主主義、自由、平和とは何かを示していこう。選挙で、この法案をつくり、賛成した人たちを落とそう。新しい市民のつながりを大事にしていこう」と訴えました。

●北九州市

戦争法強行を許さないと北九州市の小倉駅前で連日の抗議集会を開いてきた弁護士や若者ら市民でつくる「9・8実行委員会」は18日、400人が集まって本会議採決の動きに抗議しました。

集会では日本共産党の高瀬菜穂子県議がマイクで「強行は政府による"クーデター"であり、こんな人たちに、私たちの未来を託すことはできない」と訴えました。

市内在住の若者たちでつくる「FYM Kita9」のメンバーは、鈴や太鼓の音に合わせて「平和をつくろう」などとコールしました。メンバーの一人、谷本映太郎（しょうたろう）さん（25）＝飲食店従業員＝は「最後まであきらめず声を上げていきたい」と語り、23日に抗議集会を開くと訴えました。

●宮崎市

戦争法案に反対する青年団体「SUL in Miyazaki」は18日、強行採決に抗議する緊急集会を宮崎市中心部で開催し、150人が集まりました。

白江好友代表は「戦争法案反対の行動を起こした当初は一人だったけど、回を重ねるごとに同じ志を持ったいろいろな仲間が集まってくれた」と述べ、「絶対あきらめない」と強調しました。

集会ではバンドの演奏に合わせて青年がかわるがわるマイクを握り「安倍はやめろ」「強行採決絶対反対」のコールや、「採決の結果がどうなろうと廃止するまで叫び続けるしかないと思います」などと訴え。飛び入り参加でマイクを握る人や、立ち止まって見ていく人もいました。

●長崎市

長崎市では18日夜、戦争法強行を許さないと3夜連続の集会が開かれ、アーケード街入り口の鉄橋は「安倍はヤ・メ・ロ」「賛成議員は落選させよう」のコールに包まれました。憲法共同センター、長崎100人委員会、青年でつくる「N－DOVE」の3団体が主催し、約750人が参加しました。

「N－DOVE」の川一歩さん（28）が「暴力的な採決しかできないのが今の安倍政権の実態。まさに"大むかつく"です。でも絶望でもなければ終わりでもありません。たたかいはこれからです」と述べると、「そうだ」の合いの手が入りました。原口栞々子さん（23）は「安倍さん。私たちはあなたの思い通りになる操り人形にはなりません」と発言しました。

光源寺前住職の楠[illegible]さん（78）は「居ても立ってもいられなくなってこの場所に立ちました。『この道はいつか来た道』にならないよう、みんな立ち上がらなければいけない」と訴えました。

9/20 赤旗